

ビオトープだより第55号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 環境水族館アクアマリンふくしま「縄文の里」改修工事 協会監事、主席BA、プランリーフ代表 佐川憲一

環境水族館アクアマリンふくしま「縄文の里」改修工事 ～既存ビオトープにおける改修工事～

◇ 改修工事の概要 ◇

福島県いわき市小名浜の港湾に立地する水族館「アクアマリンふくしま」は、今年開館25周年を迎えます。これにあたり既存の「縄文の里」エリアを改修し、里山の中に入って自然を感じ、生き物を観察できるよう、再整備を行う計画が持ち上がりました。新エリアの名前は「わくわくはじまりの森」として、令和6年10月に着工、令和7年7月12日にリニューアルオープンいたしました。

◇ コンセプト ◇

新エリアのテーマは、「生物多様性を通して身近な自然の未来を考えよう」。身近な自然である里山を舞台に、自然の中で遊んだり生き物と触れあったり、様々な体験を通して生物多様性の保全を考える場とします。子供達だけでなく親世代も自然と親しむ機会が減ってきている現代において、体験の中で生き物のつながりや人と自然の関わりを実感し、生物多様性や自然環境を守るために、考え、行動を起こすようなプログラムを提供していくことを目指しています。



◇ 展示内容 ◇

「わくわくはじまりの森」エリアは、福島県浜通りの里山の自然を再現した環境です。石の隙間や倒木の中に展示された生き物を探したり、周囲の自然からやってくる鳥や昆虫などの生き物を観察したり、動物のフンや食べあとなどの動物の痕跡を見つけて動物の気配を感じたりして、生き物との出会いを楽しめるよう工夫されています。また、小さな子供でも安全に川遊びを楽しめる親水エリアや、水面に近い目線で生き物や自然を観察できる水中観察テラスを設置しており、里山エリアを取り囲む通路が博物館となって、福島を自然をテーマに「生物多様性」についてわかりやすく学ぶ事ができるよう整備しました。



リスの食痕展示



水中観察テラス



倒木の中には？



ハタネズミガ。



石積の隙間を覗いてみると？



ヘビの住処が。

◇ 工事にあたり ◇

今回、設計「HUMUS・仲田種苗園共同企業体」、施工元請「福浜大一建設」造園「仲田種苗園」が工事にあたり、私も設計会議より仲田種苗園の現場代理人として参加致しました。

すでに「縄文の里」として里山の環境が形成され、様々な生き物・植物が生息・生育している状況の中で工事を進めるために、設計段階よりミティゲーションの手段により工法が検討され、実施工事においても生き物・植物を最優先に工事にあたりました。造成において支障となる植物は移植、または仮植・造成完了後復植とし、カエル冬眠期には看板を設置し重機の侵入を規制するなどして生き物・植物に配慮した施工をしました。工事最終期には水族館職員の高度な技術により、在来種植物の植栽を行い、福島県浜通りの自然感を復元させました。



カエルの冬眠エリアは重機の侵入を規制



すでに里山の自然環境が形成されている



いわきの夏井川溪流をイメージした親水エリア



発注者と施工者で綿密に施工方法を検討



樹木・植物はすべて移植対象に



土留め工法、粗朶柵を施工

◇ 工事後の様子 ◇

オープンには、小川・湿地周辺の植生は工事前の自然状態まで回復させました。



来館者を出迎えるタヌキ展示施設



滝を内側から望むトンネル回廊



ホンドタヌキ



ニホンアナグマ

以上